

マイコプラズマ感染症に注意！！

10月に入り、1日の寒暖差が大きく、体調を崩してしまう児童が増えています。特に、発熱・咳・鼻水などのかぜ症状での欠席が多くなってきました。

長引く咳や熱が上がったり、下がったりをくりかえして受診したところ、マイコプラズマ肺炎と診断されることが増えています。朝から体調がすぐれないときや、咳や発熱などの症状があるときは無理をせずにお家で休養するようにしてください。

病原体	肺炎マイコプラズマ
潜伏期間	主に2～3週間(1～4週間) ※潜伏期間が長いため、気づかないうちに感染が広まってしまう。
感染経路	飛沫感染 感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口や鼻から病原体が含まれた小さな水滴が放出され、それを近くにいる人が吸い込むことで感染する。  接触感染 感染している人との接触や、汚染された物との接触により感染する。 
症状	咳、発熱、頭痛等のかぜ症状 ゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。しつこい咳が3～4週間持続する場合もある。中耳炎・鼓膜炎や発しんを伴うこともあり、重症例では呼吸困難になることもある。

学校において予防すべき感染症の解説(令和5年度改訂)日本学校保健会 より

うつらない・うつさないために

- 咳がある人はマスクをつけましょう。また、人混みに行かないようにしましょう。
- 咳が長引いている人は早めに病院へ行きましょう。放置すると重症化する恐れがあります。
- 手洗いやマスク、換気など基本の感染対策をしっかりとしましょう。
- 体調の悪いときは無理せず休むようにしましょう。



※ **マイコプラズマ感染症と診断された場合は学校までご連絡ください。**
軽症の場合は、原則出席停止にはなりません。